

現状と課題

これからの社会と学校に期待される役割

- ◆グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応と、求められる人材育成像の変化への対応が必要
- ◆これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の形成等を重視
- ◆いじめ・不登校等への対応、特別支援教育の充実、ICTの活用等の諸課題への対応も必要
- ◆初任段階での学校現場の諸課題への対応に困難を抱える教員の増加、学校の小規模校化による知識技能の継承の困難化

これからの教員に求められる資質能力

- ◆教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて学び続ける力
- ◆専門職としての高度な知識・技能
 - ・教科や教職に関する高度な専門的知識
 - ・新たな学びを展開できる実践的指導力
 - ・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力
- ◆総合的な人間力(地域や社会の多様な組織等との連携・協働できる力など)

教育委員会と大学との連携・協働による教職生活の全体を通じた一体的な改革、新たな学びを支える教員の養成と、学び続ける教員を支援する仕組みの構築が必要

改革の方向性

教員養成の改革の方向性 : 教員養成を修士レベル化し、高度専門職業人として明確に位置づけ

教員免許制度の改革の方向性 : 「一般免許状(仮称)」、「基礎免許状(仮称)」、「専門免許状(仮称)」の創設

一般免許状(仮称) : 探究力、新たな学びを展開できる実践的指導力、コミュニケーション力等を保証する、標準的な免許状。

学部4年に加え、1年から2年程度の修士レベルの課程での学修を標準。

基礎免許状(仮称) : 教職への使命感と教育的愛情、教科に関する専門的な知識・技能、教職に関する基礎的な知識・技能を保証。学士課程修了レベル。

専門免許状(仮称) : 特定分野に関し、実践の積み重ねによる更なる探究により、高い専門性を身に付けたことを証明。

(分野は、学校経営、生徒指導、進路指導、教科指導(教科ごと)、特別支援教育、外国人児童生徒教育、情報教育等)

◆「一般免許状(仮称)」の取得については様々な方法の組み合わせにより実施

(i)「一般免許状(仮称)」取得後に教員として採用、(ii)「基礎免許状(仮称)」を取得し、採用直後に初任者研修と連携・融合した修士レベルの課程の修了により「一般免許状(仮称)」を取得、(iii)「基礎免許状(仮称)」を取得し、採用後一定期間のうちに修士レベルの課程等での学修により「一般免許状(仮称)」を取得、の3類型に整理。地域の実情に応じた様々な試行の積み重ねが必要。

◆多様な人材の登用の促進

◆教員免許更新制については、詳細な制度設計の際に更に検討

◆詳細な制度設計を行う際には、幼稚園教諭等、学校種や職種の特性に配慮するとともに、国公私の設置形態に留意

当面の改善方策 ~教育委員会・学校と大学の連携・協働による高度化

修士レベル化に向け、修士レベルの課程の質と量の充実、教育委員会と大学との連携・協働による研修等の充実等ステップを踏みながら、段階的に取組を推進。主要な取組は、教育振興基本計画に盛り込み、計画的に取り組む。

養成段階

(学部)

- ◆教科と教職の架橋の推進、学校ボランティア等学校現場での体験機会の充実等によるカリキュラムの改善、「実習公害」の是正
- ◆教員審査・評価の改善、「教職センター」等全学的な体制整備の構築、個性化・機能別分化の推進等組織体制の改善
- ◆課程認定の厳格化、教員就職率等の情報の公表、事後評価システムの構築等質保証の改革

(修士レベル)

- ◆教職大学院制度を教科専門の高度化の機能を併せ持つものとして発展・拡充し、全ての都道府県に教職大学院の設置を推進
- ◆修士課程の組織の柔軟な見直しのため、大学院設置基準の大括り化等の見直し
- ◆実践性を備えた教育を提供する体制の整備等一般の修士課程の見直し
- ◆一定の実践的科目の必修化推進等専修免許状の在り方の見直し
- ◆学習科学等カリキュラム改革の理論的支柱となる実践的な教育学研究の推進
- ◆柔軟かつ多様な国公立大学間の学部・修士課程間、大学間連携の推進

採用段階

- ◆大学での学習状況の評価の反映等選考方法の一層の改善
- ◆資質能力を担保しながら、30代、40代の採用に努め、教員の年齢構成を改善
- ◆選考試験の共同実施、複数回実施の推進

初任段階

- ◆教育委員会と大学との連携・協働の取組を進め、初任段階の研修の高度化
- ◆初任段階の教員を複数年にわたり支援する仕組みの構築
- ◆「目標・内容例」の内容改善、拠点校指導教員や校内指導教員の在り方など指導体制の充実方策について検討
- ◆個々の初任者の経験に応じた研修の在り方について検討
- ◆初任者研修と「メンターチーム」の取組を有機的に組み合わせ、初任者の効果的な育成

教育委員会・学校と大学の連携・協働

多様な人材の登用

- ◆社会人経験者をはじめ、理数系の人材や英語力のある人材等多様な人材が教職を志すことができるための仕組みの検討
- ◆履修証明制度を用いた、特別免許状の活用を促進する仕組みの構築

現職段階及び管理職の段階

(現職段階)

- ◆教育委員会と大学との連携・協働による現職研修のプログラム化・単位化の推進
- ◆(独)教員研修センターについて、教員の資質能力向上のナショナルセンターとして機能強化
- ◆校内研修や自主研修の活性化を推進教育委員会の指導体制の充実

(管理職段階)

- ◆マネジメント力を身に付けるための管理職としての職能開発のシステム化の推進